

新しい難民キャンプでの活動がはじまりました

難民問題局 (DoRA) 新規職員の能力強化

パレスチナ自治区ヨルダン川西岸地区にある12か所の難民キャンプで、「キャンプ改善計画」(CIP)を策定することが、今フェーズでは計画されています。日本のODAを元手とする積み立て基金(見返資金)を利用してパレスチナ自治政府がCIP作成そのものに関わる経費を負担し、技術協力プロジェクトであるPALCIP2は、それを技術的に側面支援しています。コロナ禍でのプロジェクト開始から1年、パレスチナではロックダウンも解除され、対象キャンプでのCIP策定に必要となるDoRAの新規職員も採用されました。

そして、2021年10月、ようやく日本人専門家の現地入りが叶いました。これまでも日本からのオンラインによるコミュニケーションはしてきましたが、現地での対面でのきめ細かな協力ができるようになりました。

11月に入り、フェーズ1やそのフォローアップを担当してきたDoRAの職員とも協力して、新規に採用された職員に対して、集中的な導入研修を開始しました。

研修では、PALCIPの基本的な考え方、フェーズ1で作成した計画策定マニュアルやキャンプ改善事業実施マニュアル、CIPの策定手順、日本の復興や住民参加の経験について説明するとともに、研修に続いて開始される対象キャンプでの活動スケジュールの作成や準備を行いました。



DoRA新規職員への集中的な導入研修

新しい難民キャンプでの活動開始

今フェーズでは、第一サイクルとして、北部トルカレムのNur Shams (NS)、中部ジェリコのEin El Sultan (ES)、そして南部ヘブロン(Fawwar (FW))の3つの難民キャンプが対象となっています。

11月14日にES、11月28日にNSの各難民キャンプで、活動開始を住民の皆さんにお知らせする会合が開催されました。コロナ禍での開催のため、入場制限をせざるをえませんでした。すべての人にオープンにというプロジェクトのコンセプトに従い、会合の様子はLive配信されました。会合では高齢者、女性、若者など、様々なセグメントからの参加者がDoRAによるプロジェクトの説明に耳を傾けていました。会場からも、活発な発言があり、ある女子学生は「若者の声をもっと聴いてもらいたい」と訴えていました。

これら2つのキャンプに続いて南部のFW難民キャンプでも来年1月から活動が開始される予定です。



トルカレムのNur Shams難民キャンプ

PALCIP2 News Letter #2 (December 2021)

Participation and Inclusiveness for Improvement of Palestine Refugee Camps

Contact: palcip2123@gmail.com